

記念講演会 「聖衆来迎寺表門の坂本城からの移築について」 滋賀県教育委員会文化財保護課・尾山 義高技師



第6回総会・天田会長あいさつ

去る四月十五日、今年度の総会を開催し、大きな成果をあげました。初めて長岡京市と天津市より来賓をお迎えし、それぞれ担当の方の出席を賜り、総会に花を添えていただきました。

大津市・長岡京市より来賓を迎えて
4月15日(日)
第6回総会開催

坂本城

を考える会
 会報

発行責任者
 天田 省三
 大津市下阪本
 5丁目10-6

また、五月二十四日長岡京市より招待を受け、河村

長岡京市へ
会長 天田省三

今年度の事業計画の目玉として、観光案内の看板設置を計画しましたが、これも見通しが立ち、現在、大津市歴史博物館の先生を交えて製作中です。

今年から、顧問制度の設置を立案しましたが、滋賀県立大学教授 中井 均先生、前成安造形大学学長 木村 至宏先生、大津市商工会議所専務理事村田省三氏、元大蔵大臣 武村正義氏。地元では比叡山延暦寺 小林 隆彰氏、日吉大社宮司 真淵 直樹氏、西教寺管長 西村 冨紹 氏 下等々です。



大津市・長岡京市の来賓

私たちの運動を高く評価くださいまして、望外の喜びです。今後は長岡京市と交流が始まるのが大きな前進です。

会員皆様方の一層のご支

坂本城址公園を清掃

坂本城を考える会では、6月17日に坂本城址公園の清掃活動を実施し、公園利用者にごみもなくすっきり気持ちよくなったと喜ばれています。



援・ご協力をよろしくお願
 い申し上げます。



長岡京・小田市長と天田会長、河村副会長

坂本城総会を終えて

事務局 梶原 大義

「坂本城を考える会」第六回総会が、下阪本公民館にて、長岡京市及び大津市からの来賓を迎え、「平成二三年度の運営方針を継承し、坂本城復元計画を提案できるよう活動を推進する」ことで、提案された議案はすべて了承された。

1 大津市のパワーアップ市民活動応援事業の援助を受けて、観光用案内板・パネルを作成。
また坂本城の縄張り模型の作成、継続してのボランティアガイドの募集、「会」



修理された聖衆来迎寺表門

主催の観光ガイドの実施、レベルアップのための学習会の継続実施。

2 坂本城・明智光秀の理解を深め、より一層の啓発のため、紙芝居を作成。

3 坂本城復元に向け、県市などへの接触・アピールを継続実施。

4 清掃活動、研修旅行、会報ニュース、ホームページ、文化祭参加等、例年通り継続。

また役員、顧問について、以下が了承された。

中田安子氏が幹事退任、奥村多栄子氏が幹事新任。並木益雄氏が幹事から監事へ、山岡周天氏が監事から幹事へ。

新規に前記の方々が顧問に。

記念講演会要旨

引き続き行われた、滋賀県文化財保護課の尾山義高技師による記念講演会、「聖衆来迎寺表門の坂本城からの移築について一保存

修理工事の調査結果から」が行われ、以下の理由から、聖衆来迎寺表門は坂本城からの移築である可能性が高いと考えられる。

- ① 当初材に残っていた大工道具の加工痕から、坂本城の建築工事の時期と一致。
- ② 移築前の形式は櫓門であり、櫓門は城門として多く建てられた形式の門。
- ③ 聖衆来迎寺は、光秀から寄進された鐘や仏供料から、坂本城主明智光秀との関係が深いと考えられる。

発展を願う

全国歴史研究会大阪府会員

住友 佳一

常日頃、天田会長を中心に「坂本城を考える会」発展のため、ご尽力されておられる役員の皆様方に改めて、心から敬意を表します。

過日、無事総会が終了したようですが、私は残念ながら、他の用件と重なり、出席できず、誠に失礼をいたしました。当会も発足して、早六年

になります。当初から予想した通り、目標とする坂本城再建の道筋は、そんなに簡単なものではありません。しかし、この六年間地道な活動の結果、地元の方々

特に、至近的な活動として喜ばしいのは、長岡京市との交流が始まった事です。



周知の通り、長岡京市の勝龍寺城は、明智光秀公の三女、「玉」（後のガラシャ夫人）が十六歳の時（天正六年）戦国大名、細川藤孝の嫡男、忠興に輿入れをした、細川家の居城です。天正十年（一五八二）、父明智光秀が主君、織田信長に謀判を起こした「本能寺の変」以降、玉は数奇な運命をたどる事になるのですが、長岡京市はそういった歴史の背景を、地域の活性化と

巧みに絡ませ、平成四年、勝龍寺城跡の一角に、勝龍寺公園を設立、長岡京市民まつり「長岡京ガラシャ祭り」と銘打ち、この数年、観光のスポットとして、大きな成果を上げてきています。

このことは、我々も以前から知っていた事で、今回の交流をキッカケに、具体的な行動を起こすチャンスだと思えます。

今年こそは是非、さらなる成果を残してほしいものです。皆様方のご健闘を心からお祈り申し上げます。

先人の偉業をうけて

大津市 桐村正博

日頃仕事に忙殺され、余程自分自身が意識付けしないう限り、歴史に触れる機会がほとんどない私たちの世代。今年皇紀2672年といわれるよう、こうした歴史ある国に生を受けながら、本当にもつたないこ

とであり、また歴史を紡いでこられた無数の先人先達に対し、本当に申し訳ないことです。それだけに考える会主催の会は、歴史に触れる数少ない機会と位置付け、出来るだけ出席すべく日程調整



聖衆来迎寺表門の修復工事を視察

するのですが、今年の総会は朝起会壮年部の行事予定と重なってしまい、出席できません。代わりに妻が出席し、講演会資料を手に入れたい。目を通しますと、聖衆来迎寺表門は、坂本城からの移築された

内容が掲載されていきました。昨年亡くなられたマータイさんが、絶賛しておられた消費削減（リデュース）、再利用（リユース）、再利用（リサイクル）、尊敬（リスペクト）の概念を一言で表す「勿体ない」との言葉、その精神が移築を志された先人の精神に充ち溢れていたかが感じ取られ、何故この国が世代毎に発展を遂げ、世界的にも影響力を身につけて来たのか、温故知新改めて気付かせて頂く思いでありました。倫理社会の教科書に綺羅星の如く並ぶソクラテスを始めとする世界的に著名なギリシャの哲人たち。しかしその末裔であるギリシャ国民は金融危機の元凶になり果てようとしています。先人の築いて来られた偉大な思想を実践の伴わない単なる知識としてしか、継承していかない結果とも申せましょう。他山の石とすべく、先人の偉業に心からの敬愛の念をもって、その志に倣う実

明智光秀

大津史跡会 横田高和

坂本城を語る時に、どうしても本能寺の変と明智光秀に触れざるを得ない。明智光秀は、ライバルの羽柴秀吉が、明らかでないと同様に、光秀もまだその出自が明らかでない。

天正一〇年五月二九日朝、光秀軍一万三千は老の坂を越えて桂川を渡り、本能寺を奇襲した。六月一日午後一〇時ごろ、亀山城を出发した光秀軍二万三千人は、黙々と老の坂を超え、水掛に至った。道を右に執れが山崎に至り、中国方

践に励みたいものでございます。考える会の活動も先人の偉業の顕彰に他ならず、理解者が増え、ますます発展することを祈念します。

戦国武将フームを活かそう

- 人気武将が観光発信
- 光秀は教養人・統治者・愛妻家
- 天海僧正に？

坂本城再建の期待を語ろう！

47年度総会・記念講演

私が見た光秀像

木村至宏 大津史跡会・大津市歴史博物館

とき 4月18日(日) 13:30~15:30

ところ 下阪本市民センター・4階・大会議室

大津市下阪本3丁目14-30

面に進み、左に執れば京である。だが、実は投げられた桂川を渡った光秀軍は、怒涛の如く本能寺に襲いかかった。信長は炎の中に自刃した。だがしかし、後世に至り、主殺しのレッテルを張られた光秀は、後世の封建時代、徳川時代にはこの汚名を、時の為政者の体制を維持する為であった。今日の歴史の見直しを行い、今一度坂本城を語りたと思う。

明智光秀と天田省三さん

大津市 今井利満

天田省三さんとお会いしたのは、たしか2年前だった。それもまったく、偶然のことからだ。私の家の近くに書類を印刷するプリント店がある。そこを私は、語学の勉強のために利用している。ある老人が、一生懸命に私と並んで書類を印刷していた。何気なくその書類をのぞいたら、新聞記事が目に入った。

天主閣復元へ奔走

坂本城を考える会会長天田省三さん（76）

「坂本城、天主閣：」これは一体どういうことか。まさかこの老人が、明智光秀の築いた城を再現するために奔走しているとは思はなかった。

明智光秀は織田信長の臣下で、親方を闊達した張本人だということは知っていたが、坂本とどういう関係があるのか、それ以上の詳しいことは知らなかった。

30年も前のことだ。私は信長の没後400年祭を、安土町で開く関係者として働いていた。つまり、その式典に滋賀県庁の観光物産課長として、大切な仕事を任されていた。安土城がはたしてどのような城だったのか、今となっては知る人もいない。しかしその城は、天下を統一した信長の城として、焼けた後も450年間、天下の名城として話だけは今も伝えられている。

とにかく信長の業績をたてるために、その城をめぐる、いろいろの議論が沸いたことだけは覚えていて。その時の滋賀県知事は武村正義さんだった。知事もこの歴史的な安土城が、実際にどんなものだったのかを調べるのに苦労されていた。たしかに日本のお城は、世界でも独特の建築物である。天田会長がどういうことから、坂本城の再建を考

えられたのか知らなかった。しかし安土城が、幻の城といわれているが、坂本城もそれに似たいきさつをもっている。天田会長に興味をもったのはこういう理由からである。しかも面白いことに、会長の話を伺うと、日本の寺のこともよく知っておられる。ちょうど私が、追い求めている寺についても、歴史的な視野から、新しい話が聞けることが多かった。

滋賀県内には、有名な井伊大老の彦根城がある。何れも明智光秀の城をつくらなくても、という意見もあるかもしれない。しかし、大津市に住む人間としては、明智光秀を見直す絶好の機会ではないだろうか。

外国語の勉強張りで過ごしてきた私にとっては、天田さんの話は、耳新しいことばかりであった。私はずっともと満州生まれで、終戦までは中国で育った。日本の風景を見てみると、ひょっとすると自分は、外国人の目でこの日本を見ているの

かもしれない、と思う時がある。65年前は、中国の蘇州で日本陸軍の新兵で終戦を迎えた。

あの有名な寒山寺は、今でも私の眼の底にやきついている。明治の宰相、伊藤博文の寄贈した釣鐘が、大事に寺の中に記念として残されていた。

中国侵略では汚名を残した日本ではあるが、日本人もよい記念品をそこに残しているのを知ってうれしかった。

明智光秀は天下の武将であり、文人としても有名である。なにかしら光秀という、悪者の印象を一般に

坂本城に輝きを

- 坂本城から大津城へ、さらに彦根城へ
- 人々との繋がりは全国へ
- 次の研修旅行も計画
- 人の輪は大きく広がる
- 地域の活性化へ
- **情熱を持った人材を育成**



あたえがちだが、比叡山延暦寺の近くに坂本城が再建されれば、明智光秀の新しい人間像が、生まれてくることになるのではないだろうか。ぜひとも将来の人たちを、大津市に新しい歴史を飾る、お城ができることを期待したい。天田さんにぜひ頑張ってもらいたい。

不思議なご縁で会員になる
大津市 井口順子

人間のご縁とは実に不思議で、面白く、味わい深いものだと思います。私と天田会長との出会いも、まったくその通りでした。

私は桜とお祭りが大好きで、あちら、こちらと楽しんでおります。それで地元祭りの祭である「大津祭」を学びたいと平成19年、「大津まちなか大学」の2

期生として受講することにしました。その時に講師の舟橋寛次さんにお世話になり、無事卒業しました。その後、舟橋さんの家に伺った時に、始めて天田省三さんにお会いしました。あいさつと自己紹介の数分間でしたが、「坂本城を考える会」について熱心に説明して下さいました。

私の家業が坂本で仕事している事や、山王祭にも毎年見に行っていることなど、話のキャッチボールはどんどんと進みました。その中でも、靈仙三蔵法師の話は、びつくりしました。その数か月前に、田中弥一郎さんが自費出版されていた「マロニエ

坂本城・光秀の観光チラシを作成

- 関連遺跡は多数存在
- 周辺の駅や関連施設、ホテルや旅館に設置
- 地域住民が関心を高め、観光客が活用



ある日ある時、今はなき坂本城を考える会を立ち上げる時、現会長天田さんに助言をし、会の立ち上げを促し、顧問に就任された、舟橋氏との出会いが、私がこの会に入会するきっかけになりました。名前だけネーミングは、最初は何かの目的で、話が過ぎました。最初は何かの目的で、何故、何故、何故、私にも疑問がでる文化祭等展示をしている場所に出向き、やっ

会員になつて学びふれあい
大津市 奥村多喜子

の道」という本を読んだすぐ後だったからです。日本で唯一の三蔵法師で近江の国の丹生の郷で生まれた遣唐使の存在です。その事を天田さんは詳しく知っておられました。この様な不思議に導かれる形で「坂本城を考える会」に入会させていただく事となったのです。ただ、紹介してくださった舟橋さんはその

六ヶ月後位にお亡くなりになりました。今は、このご縁に感謝の気持ちです。これからも総会や講演会、坂本城址公園の掃除、研修旅行にも楽しく参加して、より一層、深く広くの交流の中で、幸せと感ぜられる輪を広げたいと、心より願っています。これからもよろしく願っています。

勉強会にも参加して。会員それぞれが真剣に、坂本城建設が目的でなく、下阪本に光秀が築いた城があり、城主であったこと。初めての天主のある城であったこと。発掘調査により本丸の跡、二の丸の跡、石垣が湖底にあったこと等、そして又坂本城の役割等、ただ残念に思うことは想像の域を出ない城であることです。でもお城のことを考えながら、坂本のことを学び、今

き、少しづつ興味をもつようになってきました。ただ興味をもちながら？とおもうこともあります。私のように他県から移り住んだ人たちが会員の中に多く、地元の人たちの参加が少ないかな？と思うことです。もう少し地元の方たちとのふれあいを大切にして、会員増に結びつく手だてはないものかと考えながら、考える会の勉強会に参加しています。今年は紙芝居も作る計画があるので、今まで以上にふれあいの時が持てるかなと、楽しみにしています。今後の会の発展を念じつつ・・・

ボランティアガイドの実施

- 各地にあるボランティアガイド
- ガイド養成の勉強会も実施計画





役員になって思うこと
大津市 山岡 周夫

大津市は平成15年に古都の指定を受け、引き続き平成21年に中核市として位置付けられた都市であります。西暦667年大津宮の都が創られて以来、歴史上の数多くの史跡・名所が残されています。又湖に面した水が煌めく自然の美しい都市でもあります。この地域特性を生かした大津市の街づくりは、市内に居住している市民の一人として、誠に関心のあるところであり、又協力も必要だと考え

ます。私達「坂本城を考える会」の取り組みも、市内に在住するまちづくり団体と同様、その存在は小さくとも、歴史上存在した坂本城を、教科書の一頁で終わらせることなく、その姿を何とか存在した場所、下阪本に復元できないかと取り組んでおります。目標である「復元」という山頂に向かって、一步一步と進めていかなければと活動しております。復元に到るまでには、相当の年月と社会経済背景が必要であります。私達の日々の活動は坂本城が存在していた時代（1570年代）の歴史の勉強から始まり、城の実体（型）他市に存在している関連的な城郭などの調査や資料に収集、又歴史家へのヒヤリングと、レンガを積んで建物を建てる如く活動を進めており、会の存在を広めるためにも行政・自治会への接

渉も怠ることなく、進めている状況であります。私は大した事はできませんが、本年度の役員の一人として就任するにあたり、天台宗の人の道「忘己利他」の教

坂本城跡地周辺のボランティアガイドを実施
大津市 梶原大義

大津市パワーアップ市民活動応援事業からの支援を受け作成した観光地図『明智光秀を歩く』に基づき、平成23年度の坂本城周辺観光地のボランティアガイドが行われた。

今年NHK大河ドラマの影響もあり、例年になく多くの観光客がみられた。ガイドとしては、都合のつくガイドが個々に行った。休日の坂本城址公園に待機しての個人や少人数のガイド、バスなどによる団体の多人数のガイドの二つが実施された。双方含めて、最も重要な問題は、観光となる坂本城関連の観察できる実際の遺跡がほとんどな

えのように、自分が生かして貰っている間、少しでも役立つことができればとの思いで就かせていただきました。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

いことである。

団体として滋賀銀行経済文化センター文化講座主催の約50名、菜の花グループの約30名、オーパス歴史サークルの約10名などのガイドを実施した。

問題点として、国道に番号がないため、高齢の方が多いこともあり、道路横断に危険性があり、国道を渡って東側にある坂本城の石垣などの遺跡への移動が困難なことが多々ある。坂本城の石垣が琵琶湖の水面下であり、観察ができないことやこの石垣を観察する場所が私有地であり、観察には会社の了解が必要であることなど、多くの問

題がある。これらの問題解決は難しいが、実際に坂本城そのものが残された遺跡の一つである『坂本城の石垣』をもう少し観察できるように、例えば湖岸を矢板などで仕切り、石垣の個所を排水することなども考えられるであろう。今年新たに坂本城の門からの移築であると確認された『来迎寺の門』の、坂本城の遺跡としての積極的な活用も必要であろう。しかしいざれにせよ、ここ坂本の地が東国から京都への物資の上陸地として、極めて重要な地であり、この地に安土城に先立つこと4年、日本で初めての瓦葺きの天主を持つ城が造られたことは歴史上極めて重要である。大津には、この坂本城から始まり、大津城、膳所城と三つの水城が築城されており、これらの大津三城を繋ぐ、また安土城とを繋ぐ線としての観光開発も重要であろう。